

---

# 絶対に笑ってはいけない風紀委員(ジャッジメント) 2 4時

ダークカブト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

絶対に笑ってはいけないジヤムジヤメント風紀委員24時

### 【Nコード】

N5463T

### 【作者名】

ダークカブト

### 【あらすじ】

この小説はHＶライナーの許可を得て書いております。

この小説はダウンタウンのガキの使い 絶対に笑ってはいけないスパイ24時のパロディです。どうか暖かい目でご鑑賞下さい。

## プロローグ

バラダイスがくえん  
桃源郷学園、校門前そこにはジャッジメント風紀委員一番隊、隊長沖田を含め一番隊メンバー全員が終結していた。

ハヤテ「けど、一体なんなんですかね重要な任務って?」

ヒナギク「さあ、私も聞かされてないわ」

明日菜「どうせ又松平さんが娘のデートを妨害しろとか言ってくるんじゃないの」

ハヤテたちがそんな会話をしていると

ガタン!

後ろから物音が聞こえた

フェイト「えっ?」

後ろを振り向くと

ドタドタドタ

後ろのゴミ置き場に合ったポリバケツが走り出してきた

御坂「ちょ!?!何々!?!」

ハヤテたちが驚いているとポリバケツは止まり真ん中から二つに割

れる

すると中から

工・唯「皆、全然気づかなかつたでしょ」

ティアナ「唯先輩？何やってるんですかこんな所で、てかその格好？」

工・唯「ふっふっふ、私は君達が知っている平沢唯ではないのだよ  
なのは「それどうゆう意味？」

工・唯「私は仮面ライダーエターナル最凶の仮面から来た唯なのだ！」

黒子「えっ？」

工・唯「まあ、細かい事は気にせずまずは、この手紙を聞きたまえ  
唯はそう言つと懐から一つの手紙を取り出し読み上げる

工・唯「ジャケット拝啓、風紀委員の諸君いつも君達の功績は耳に入っているよ、不良を撃ち殺したり」

山崎「いや、あの…」

工・唯「酔っ払いを殴りかかろうとしたり」

キンジ「それは…」

工・唯「上司の娘のデートを邪魔をするとゆづくだらねえ仕事をしたり」

小太郎「今、くだらねえって」

工・唯「公開SMショーなんて卑猥な事を堂々とする羞恥心の欠片もない君達にはいつも関心するよ」

土方「いや、これ完全に貶してんだろ！」

工・唯「汚職警官並の精神を持つ君たち風紀委員ゴキブリにはこれから一日二十四時間の強化訓練に挑んでもらおうと思う、詳しい事は唯君に聞きたまえ、以上…分かった？」

唯が笑顔で答えると

「「「「「ふざけんなあああああ！！！」「」「」「」

ハヤテたちは怒りをあらわにしながら唯に迫る

ラウラ「今風紀委員って書いてゴキブリって言っただろ！？」

アリア「私たちはゴキブリと同類だとも言いたいの！！」

土方「だれだ！手紙書いた奴は！此処につれて来い！」

土方たちが手紙の内容に怒っていると

エ・唯「FUCK YOU!!! SON OF A BITCH!  
!」

唯はハヤテ達にとんでもない事を言った

桃子「ちよつ、ちよつと……唯ちゃん……」

唯の豹変振りに驚く一同だが

唯「いいから文句言わず、これに着替えろや、さもねえと……殺すぞ」

唯はドス黒いオーラを出しながらハヤテ達を睨む

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

ハヤテ達はすぐに唯が持っていた袋を手にとってなぜか合った更衣室に走りこむ

10分後

エ・唯「皆、着替えはすませたー?」

ハヤテ「はい」

エ・唯「では、どうぞー」

唯がそう言つとハヤテ達はスパイ映画に出て来そうな黒服を身に纏っていた

エ・唯「じゃあ、これから訓練内容を出すから良く聞いてね」

篤「はい、」

エ・唯「これから24時間、君達は一切笑ってはいけない以上！」

「「「「「「「「.....えっ??」「」「」「」「」

エ・唯「だから、訓練内容は笑ったら駄目って事」

シャル「いや、それがキ使の」

エ・唯「はい、じゃあ出発ー！」

シャル「えっ!?無視!?!」

唯はシャルの言葉を無視しそのまま歩き出し、ハヤテ達も渋々唯の後について行った

バスの中で1（前書き）

今回はバスの話です。



## バスの中で1

ハヤテ達は唯に連れられバス停に着く

エ・唯「さっき言った通り、今回の訓練は笑ってはいけない訓練だよ、ジャツジメント風紀委員である以上どのような事にもどうじてはいけないんだよ、だからもし笑ったりしたらキツイお仕置きがあるから気をつけてね」

ヒナギク「……………はい、」

ヒナギクは渋々返事をする

エ・唯「これから、シヤマツジメント風紀委員訓練支部NIAに向かうバスが来る、バスに乗った時から訓練は始まるので心して掛かるように」

黒子「あの一、」

エ・唯「はい！黒子君」

黒子「NIAって、何の略ですか?」

エ・唯「ネーバー白光り諜報局の略だよ」

キンジ「ぷっ！」

唯の言葉に若干笑ってしまふキンジ

プップー

すると後ろからむっっちゃ派手なバスが来た

ゆり「何？この派手なバス？」

エ・唯「文句いわず早く乗れ！！」

唯は叱咤する

土方「へいへい」

ハヤテ達はそのまますの中に入る

笑ってはいけない風紀委員24時<sup>ジャッジメント</sup>

START

第「ふー、」

ハヤテ達は座席に座り一息つく

ラウラ「ドアの正面嫌なんだが」

シャル「がまんしようよ、ラウラ」

ピー！

するとバスのドアが閉まりバスが発進する

山崎「厳密に言つと今フェイトさんとなのはさん、ちょっと笑ってましたよ」

桃子「笑ってたわね」

ティアナ「にこやかでしたよね」

エ・唯「厳密に言つとにこやかでも叩くケースはあるからね」

フェイト・なのは「ええええ!?!」

デデーン!!

土方「なんだ!?!」

なのは・フェイトOUT

フェイト「ちょ、ティアナ汚いわよ!」

するとマスカレイド・ドーパントが現れた

なのは「ちょっ!なんだWのキャラがいるの!?!」

アリア「なんか怖いんだけど」

するとマスカレイドはなのはとフェイトを立たせる

エ・唯「二人共、尻を向けて」

なのは「えっ？」

エ・唯「早く!!」

フェイト「はい!!」

二人がマスカレイドに尻を向けると

スパーン!!

マスカレイドは持っていたゴム製の棒で二人の尻を叩いた

なのは「痛!!」

フェイト「あつー!!」

二人は自分の尻を押さえる

固法「ちよっ!?だめ、だめ!」

六夏「これは、本当に駄目だつて!」

あせりだす一同

エ・唯「うるさい!それに笑わなければいいんだよ」

唯の言葉にハヤテ達は黙りそのまま座席に戻る

フェイト「でも、最初からあんなのアリ?」

沖田「昆虫だつたら死んでるな」

明日菜「ぶっ!」

沖田の言葉に笑ってしまった明日菜

キンジ「あっ！笑った」

デデー

明日菜OUT

明日菜「ちょっと、待って！」

だが、有無を言わずマスカレイドは明日菜の尻を叩く

スパーン！

明日菜「痛！」

刹那「ちょっと、例えとかやめましょっよ」

沖田「俺はただ自分が言いたい事を言ってるだけで…あっチャック開いてた」

近藤・スバル・明日菜・玲士郎 「ハハハハハハ！」

沖田のチャック発言に笑ってしまう4人

デデー

近藤・スバル・明日菜・玲士郎OUT

ラウラ「これ進んでないぞ全然」

ラウラはバスがまだ発車していない事に気づく

スパーン×4

近藤「おう！」

スバル「あん！」

明日菜「又！」



玲士郎「痛て！」

4人はそのまま尻を抑える

アリア「早く言ってよ！」

ヒナギク「出発してください！」

ブオオオオオ

思わぬハプニングが合ったがバスはNIA本部へ目指し発信した

この先に待つ物とは……………

## バスの中で1（後書き）

次回は〇太郎とドカ〇ンが出てきます。

バスの中で 金太郎編 1

NIA本部に向かっていているバスの中で

刹那「見てください、唯さんの顔さつきからちよくちよく私たちの方を見て笑ってますよ」

御坂「なんか腹立つわね…」

ハヤテ達が唯に対して不満を言っていると

箒「んっ…プフフフフ」

シャル・ラウラ「プハハハハハハ」

キンジ「どうしたんだよ、んっ？…ハハハハハハ」

箒とシャル、ラウラ、キンジはある物を見て笑ってしまっ

それは、熊にまたがった金太郎が道路を横断していた

デデーン

箒・シャルロット・ラウラ・キンジOUT

箒「とんでもないタイミングで視界に入って来たから」

ラウラ「誰だ？」

そうしている間でもマスカレイドは箒たちの尻を叩いた

箒「痛！」

ラウラ「くっ！」

シャル「んっ！」

キンジ「あ痛！」

ハヤテ「誰ですか？」

山崎「おっそいですね熊」

箒「私はどっかのおばちゃんと思ったんだが…違うな」

アリア「おばちゃんじゃないわね」

そうこうしている内に金太郎はバスに近づいてきた

フェイト「え？」

ゆり「本当に誰？」

明日菜「顔見ないと分からないわよ」

すると金太郎がバスの中に入ってくる

土方「…プハハハハハハ！」

「……………アハハハハハハハハハハ！」……………

土方を皮切りに金太郎の顔を見て全員が笑う

??? 「まゝさかり かゝついで 金太郎」

山崎 「あれ、電王の幸太郎ですよね！」

金太郎の正体は仮面ライダーNEW電王に変身する野上幸太郎だった

デデーン

全員OUT

なのは「も〜」

スバル「かなりいい声ですよ」

スパーン！×28

近藤「痛！」

土方「いつ！」

沖田「っ！」

ハヤテ「あ痛！」

く以下省略く

近藤たちは尻をさすりながら座席に座る

アリア「歌はうまいのね」

ゆり「あれ、熊だけ動いてる？」

ハヤテ「えっ？プハハハハ」

ヒナギク「アハハハハハ」

なのは「ハハハハハハ」

デデー

ハヤテ・ヒナギク・なのはOUT

ヒナギク「あんな動きされたら駄目だって」

なのは「もうゆりちゃん！」

ハヤギク「そんな事言わないでいいの！」

スパーン

ハヤテ「痛！」

ヒナギク「もう！」

なのは「やん！」

幸太郎「僕、力持ちなんだ」

すると幸太郎が話しかけてきた



幸太郎「はい！」

近藤「ああ、どうも」

幸太郎「……………」

ハヤテ「……………プハハハハハハ！」

御坂「アハハハハハハ」

桃子「ハハハハハハ」

カップが乗車して来た

ハヤテと御坂、桃子は突然のカップの出現に笑ってしまっ

ハヤテ・御坂・桃子OUT

波乱はまだまだ続く



バスの中で 金太郎編2&ドカベン編

バス内

バシッ!

ハヤテ「あ痛!」

御坂「つう!」

桃子「いやん!」

ハヤテ・御坂・桃子はカツパの出現に笑ってしまい尻を叩かれた

ハヤテ「何時まで続くんですかこれ?」

ハヤテがそうつぶやくと

金(幸)太郎「コラッ河童くん!!!人間界に出て来ちゃダメじゃないか!!!」

金（幸） 太郎がカツパに説教をしていた

カツパ「くわあ〜！くわあ〜！」

カツパは金（幸） 太郎に威嚇をする

金（幸） 太郎「よし！こうなったら、僕と相撲をとってもし負けたらお郷に帰るんだよ！」

カツパ「くわあ〜！」

すると金（幸） 太郎とカツパがバスの中で相撲を取ろうとする

第「ここでやるのか？」

ハヤテ「何でここでやるんですか？」

金（幸） 太郎「よいしょ〜！よいしょ〜！」

ハヤテ達の事を無視して金（幸） 太郎とカツパはしこを踏む

金（幸）太郎「はっけよゝいのこった!！」

ガシッ!

そして二人は相撲を始める

「のこった!のこった!」

ハヤテ「??……フハハハハハハ!」

するとハヤテはある事に気づき笑い出す

ヒナギク「どうしたの?ハヤテ君……ハハッハハハッハ!！」

そしてヒナギクもそれを見て笑ってしまう

それは

「のこった!のこった!」

キーン

ワァアオ！

金（幸）太郎のち こが見えていた

「とりゃああ！」

そのまま金（幸）太郎はカツパを倒す

ハヤテ・ヒナギクOUT

ハヤテ「おもしろすぎるでしょ」

ヒナギク「もお〜！」

ハヤテとヒナギクは尻を向ける

バシッ！

ハヤテ「あ痛！」

ヒナギク「っんー！」

金（幸）太郎「じゃあ気をつけてお帰り！」

カツパ「くわあ〜！」

カツパはそのままバスから逃げ出す

「じゃあね、ま〜さかりか〜ついで金太郎〜 ハイシドウドウハ  
イドウドウ」

プウウ！

金太郎はそのままバスから降りバスは発車する

小太郎「めっちやええ声やったなあ」

キンジ「そつだな……」

ハヤテ達はかくじつに疲労しながら目的地に向かっていた

黒子「ちょっとまた何かいますわ」

黒子はある一団を目にした

御坂「もういいわよ教えないで」

プウウ！

停留場に到着しある一団が入ってくる

智代「……………プハハハハハハ！」

ハヤテ「ハハハハハハハハハハハハハハ！」

智代・ハヤテOUT



バシッ!

智代「痛い!」

ハヤテ「あっ!」

明日菜「ねえ、あれ電王のモモタロスとかじゃない?」

明日菜はその集団が明訓高校野球部のユニフォームを着たモモタロス・ウラタロス・リュウタロスである事に気づく

土方「何で、仮面ライダーのキャラが良く出るんだよ?」

シャル「気にしたらダメですよ土方さん」

明日菜達がそんな会話をしていると

(キャスティング、岩鬼・モモタロス、殿馬・リュウタロス、里中・ウラタロス)

モモタロス「いや、今日の練習試合一団ときつかったなあ」

リュウタロス「でも甲子園の為ズラ、皆でがんばるズラ〜！」

ウラタロス「……………」

モモタロス「どうした？里中」

ウラタロス「俺、もう野球部辞めようと思ってるんだ」

モモタロス「あゝ？何言ってるんねんお前？」

リュウタロス「そうズラよ、里中は明訓野球部の、オイ！エースだぜ！〜！」

ウラタロス「地元の友達と遊んでる方が楽しいんだ…もう放つといてくよれ！〜！」

リュウタロス「おい、里中」

モモタロス「おいおいおいおい〜！」

里中はそのままバスを降りる

モモタロス「ばっか野郎が！」

リュウタロス「どうするんだよ、アイツがいなかったら！アイツはエースだぜ！」

モモタロス「あっ！山田が来た」

ハヤテ「えっ？ドカベンの中田」

ハヤテがそう言つと

「????」「やゝまだ！ちよつと里中飛び出して行っただけどうしたの？」

土方「……プハハハハハハ！」

「ハハハハハハハハ！」

するとそこになぜか電王に関係の無い仮面ライダーWの泉 京水が  
入って来た

全員OUT

(全員笑いましたが引き続きお楽しみ下さい)

モモタロス「実は里中の奴が野球部を辞めちまったんだよ」

京水「えええ！？じゃあどうするの！？」

リュウタロス「とりあえず里中の代わりを探さんと」

モモタロス「簡単に見つかるもんかいな」

パン！

すると山田が岩鬼の足を軽く叩く

モモタロス「えっ？」

京水「いたよ!!」

リュウタロス「いた!」

京水「いいのがいたわよ」

山田がそう言うとハヤテ達は顔を背ける

だが山田はハヤテ達の所に向かい山田はハヤテの前で止まる

ハヤテ「……!!」

ハヤテは動揺する

京水「ちょっと、立って、立って」

ハヤテ「……………プフッ」

沖田「フフフフ……」

ハヤテ・沖田OUT

そのままハヤテは立つ

京水「あなた可愛いわね…絶対野球経験あるでしょ？」

山田はハヤテの耳に顔を近づけ話しかける

ハヤテ「いいえ…」

京水「絶対野球経験あるでしょ？」

ハヤテ「……はい……」

ハヤテは山田に脅えはいと答えてしまう

京水「坊や、一緒に野球やりましょうよ」

京水はハヤテの体を触りまくる

ハヤテ「今はちょっと無理なんで」

京水「こない頼んでるのに何だよ!」

ハヤテ「他にやる事があるので…」

京水「他にやる事って何よ!」

ハヤテ「……………」

ピシッ!!

すると京水はハヤテに平手打ちを食らわす

「……………」!!  
「プワハハッハハハハハハッハハッハ!」  
「……………」

全員が京水の行動に笑った

全員OUT

沖田「それはハヤテしょうがねえよ」

ピシッ！

「「「痛！！」「」」

キンジ「ハヤテが悪いな」

ピシッ！

「「「「あんっ！！」「」」」

ハヤテ「僕それでお尻も？」

バシッ！

ハヤテ「いった！」

なぜかハヤテだけ強めに叩かれた





バスの中で ドカベン編2

京水「あっ！！アイツら……」

するとドカベンが窓の方を見て驚く

キイイイ！

するとバスの横に一台の車が止まる

山崎「なんでしょうか、あれ？」

パアン！！

近藤「ええええ！」

すると突然車の中の連中が発砲して来た

ハヤテ「うわああ！？」

突然の発砲に驚くハヤテ達

リュウタロス「里中ズラ!!」

すると殿馬が車の中に里中がいる事に気づいた

明日菜「ええ!?!」

土方「なんで、里中がいたんだよ!?!」

モモタロス「里中や!?!」

アリア「何だよ!?!」

京水「だったら殺るしかないでしょうよ!?!」

智代「ええ?」

小太郎「撃つて来たで!?!」

ハヤテ達が驚いてる中、ドカベン達は銃を取り出す

モモタロス「おい、どこ行った？」

京水「そこにいるわよ！殺っちまいなさい！！」

リュウタロス「おう！」

ズキユン！

ズガガガガ！！

バキユン！

キンジ「どわああ！！」

銃撃戦が開始されハヤテ達は耳を押さえる

ズキユン！バキユン！

里中もドカベン達に向け銃を連射する

小太郎「里中めっちゃ悪いやん!!」

モモタロス「山田このままじゃラチがあかねえ」

リュウタロス「よし！俺が囷になるズラ！その隙を見て2人で里中を殺っちまうズラ!!」

殿馬はそう言うとバスの正面に出て銃を撃つ

バキユン！

パン！

リュウタロス「うっ！」

里中が撃った弾が殿馬を撃つ

シャル「うわっ！！」

殿馬はそのまま倒れる

モモタロス「殿馬！！」

ハヤテ「死んでるんですか？」

モモタロス「殿馬！！」

リュウタロス「ぐはっ！」

モモタロス「殿馬あゝ！戻って来い！！殿馬あゝ戻って来い！！」

京水「この腐れ外道が！！」

すると里中は逃げ出した

京水「行くわよ！」

するとドカベンはバッグからバスーカを取り出し里中に向ける

箒「おいおいおいおい」

ハヤテ達は耳を押さえる

なのは「怖い、怖い」

ズドオオオオン！！

スバル「うわああああ！！」

ドガアアアアン！！

バスーカは里中の方に向かって飛んで行き爆発した

京水「くたばれ！里中めこの野郎！」

モモタロス「殿馬！」

京水「行くわよ殿馬！」

ドカベンと岩鬼は殿馬を抱える

ポロツ

すると殿馬の鼻が取れた

なのは「ハハハッハッハハハッ！」

ラウラ「メチャクチャじゃないか！」

京水「鼻取れたわよ殿馬！」

ドカベン達はそのまますから降りる

デデーン！

全員OUT



ティアナ「そりゃアウトにもなりますよ!」

バシッ!!

なのは「っあ!!!」

フェイト「んっ!」

ティアナ「痛!」

ハヤテ「ああっ!!!」

土方「ぐへっ!!!」

沖田「ツツツ!!!」

（以下省略）

ハヤテ「ビンタ痛かったあ」

京水「ごめんなさい」

するとドカベンがハヤテに向けて謝る

京水「ごめんなさい」

黒子「ハハハハッハハ」

ハヤテ「いいです謝らなくて」

六夏「ドカベンさん」

桃子「何で謝ってるの?」

京水「ごめんなさい」

御坂「ドカベンさん謝らなくても」

京水「ごめんなさい!!--」

ハヤテ「何何ですかもおお」

ババババ！！

するとドカベンはマシンガンを撃つ

固法「うわっ！？」

京水「ごめんなさい！！」

刹那「謝って怒ってますね」

土方「ルールがめちゃくちゃじゃねえか」

続く



バスの中で ストリッパー編（前書き）

更新が遅れて申し訳ありません。

## バスの中で ストリッパー編

ハヤテ達が始まって少しで疲れている頃

プウウー！

次の停留所に到着した

ハヤテ「またですよ」

ファイト「今度は何？」

すると知らない中学生が2人が入ってくる

学生1「コレ見てコレ見て」

学生2「何だよ？」

学生1「ジャーン！」

学生2「おお！何コレ何コレ！」

学生1「見よ見よ」

学生の一人がエロ本を取り出し見始める

学生1「おおお！すっげえ！」

学生2「すげえ！」

学生1「やっぱり大人ってすげえな」

学生2「やばいでかくな！」

ハヤテ「……………」

疲れ果てて無反応なハヤテ達

プウウウ！

するとバスは次の停留所

「????」  
「……………」

するとなぜかストリッパーが乗車して来た

ヒナギク「はああ……」

もう嫌といわんばかりにため息を吐く一同

沖田「かかかかか」

近藤「ぷぷぷぷぷ」

沖田 近藤 O U T

バシッ!

沖田「痛てっ!」



近藤「あんっ！」

尻を叩かれる2人

土方「んっ？おい、あれ桂じゃねえのか」

ハヤテ「あっ！本当だ桂さんですよ」

沖田「桂！てめえ、今日こそ逮捕だ！」

工・唯「全員座れ！」

ヒナギク「えっ？」

桂を捕まえ様としたハヤテ達だったが唯に止められる

黒子「なんで邪魔をするんですの？」

工・唯「桂さんには協力してもらってるのだから逮捕すんな！」

ハヤテ「けど」

エ・唯「いいから!」

明日菜「はっ、はい」

ハヤテ達はしかたなく席に座る

学生1「うっわ!すげ」

桂「中学生の坊や達なんやエライもりあがってるやん、でもそんな写真の女より生身の女が…こつすりゃええんやろ、こつすりゃええんやろ、そんなこつすりゃええんやろ」

桂は帽子で中学生に顔を見せたり隠したりした

土方「何やってんだアイツは」

アリア「気持ちわる」

桂「そんでこつすりゃええんやろ、こつすりゃええんやろ、んで、こ

うしてにうしてにうすりゃええんやろ…にうすりゃええんやろ、にうすりゃええんやろ…んでにうしてにうしてにうしてにうしてにうすりゃええんやろ」

桂はシャツのボタンを取ろうとしたが最後の一つに苦戦する

ハヤテ「ハハハハハ」

沖田「ギャハハハハハ、取れねえじゃねえか」

ハヤテ 沖田 O U T

ダダダダ！

バシッ！バシッ！

ハヤテ「痛い！」

沖田「んがっ！」

桂「んで…にうすりゃええんやろ！…にうすりゃええんやろ！」

桂はボタンをやっとはずし中学生の前で踊り始める

桂「こつすりゃええんやろ！こつすりゃええんやろ！んでこつしてこつしてこつしてこつしてこつしてこつすりゃ」

???「姉ちゃん！！」

桂「はっ！」

すると謎の人物がバスの中に入ってくる

バスの中で ストリッパー編（後書き）

謎の人物は考えてみれば分かります

ヒント 「 「

バスの中で ストリッパー編2

???? 「姉ちゃん！」

桂「よっ！よしお」

突然継ぎ接ぎだらけの制服を着たエリザベスが現れた

ハヤテ「はははははは」

近藤「ぎゃははははっはは」

シャル「ふふふふふ」

全員OUT

ハヤテ「もう、やだ…あ痛！」

バシッ！

第「何なんだこのストーリー？」

キンジ「気まずいなあ〜」

エリザベス「姉ちゃん何やってんだこんな所で…俺、もうそんなの  
恥ずかしいよ！」

桂「じゃ…じゃあどうすりやええのよ？お父ちゃんは仕事せえへん  
お母ちゃんは出て行く…私かてなあ好きでこんな事やってる訳や  
ないんやで！それもこれも…あんたを…大学まで行かせる為や！！  
…それでも、それでも恥ずかしいんゆうんやったら、もういつペン  
お姉ちゃんの踊りちゃんと見とき！！」

すると桂はハヤテ達の方を向く

桂「ジャツジメント風紀委員共、行くでえ〜！こうすりやええんやろ、こうすりや  
ええにやろ、こうして、こうして、こうして、こうして、こうして、  
やええんやろ、」

桂はバスの手すりを掴みながらハヤテ達の目の前でストリップダン  
スを踊る

桂「こうすりやええんやろ、こうすりやええんやろ、んで、こうし

て、じゅじゅて、じゅじゅて、じゅじゅて、じゅすりゃええんやろ」

桂は一度踊りをやめるとカバンからローションを取り出す

ピチャピチャピチャ

桂「この音好きやろっこの音好きやろっんべ、じゅじゅて、じゅじゅ…」

ツルツ、ツルツ、

桂は手すりに又捕まるうとしたがローションで滑って掴めなかった

沖田「おや、おはっおはっおはっおはっおはっ」

ハヤテ「おはっおはっおはっおはっおはっ」

御坂「ぷぷぷ」

ラウラ「おはっおは」



沖田 ハヤテ 御坂 ラウラOUT

ハヤテ「そりゃ滑りますよローション付けたら」

バシッ！

ハヤテ「痛！」

バシン！

沖田「ぎゃああー！」

バシッ

御坂「つつー！」

バシッ

ラウラ「くっ！」

土方「今の天然だろ？」

黒子「そりゃあありませんわ」

桂「よしお、姉ちゃんどやった？」

エリザベス「凄くキレイだった」

エリザベス「世界一の姉ちゃんだよ！！」

桂「よしお！」

がしっ！

桂とエリザベスはお互いに抱き合う

土方「なんでだよ？」

桂とエリザベスはそのままバスを降りる

桂「今日はアンタの好きなコロッケやで」

エリザベス「やった！」

桂「手ベトベトでごめんな」

小太郎「兄ちゃんか姉ちゃんかどっちなん？」

フェイト「あの、なんか唯ちゃんがうつすら泣いてるんだけど」

ティアナ「なんでですか!？」

唯「いや、姉弟きょうだいっていいね、感動のハッピーエンドだよ」

土方「今のやり取りのどこに泣ける要素が合ったんだよ」

ブウウウウ!

するとバスがある所で停まる

唯「はい、じゃあ皆目的地に着いたから降りてえー」

ハヤテ「やっと着きましたよ、」

土方「さっさと終わらせて帰りてえよ」

ハヤテ達はそのままバスを降りる

ここからが真の地獄の始まりだとも知らず

バスの中で ストリッパー編2 (後書き)

あれ？なんか最後までホラーっぽくね？

## お知らせ

申し訳ありませんが、この小説は他の小説が忙しくなったので今年  
いっぱい更新しないかもしれません、楽しみにしていた皆様には  
本当に申し訳ありません、ですが来年か今年余裕が出来たら更新し  
ようと思います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5463t/>

---

絶対に笑ってはいけない風紀委員(ジャッジメント) 24時

2011年10月10日00時47分発行